



新年明けましておめでとうございます。今年も、どのよう  
な年になることでしょうか。健康は、簡単に確立できないか  
らこそ私達の全人的成長が必要となりますが、自己意識を高  
く持てないと血液検査で異常が見られても、治そうという気  
持ちは起こらないものです。

正月料理や御馳走を前にしても、私は決して食べ過ぎない  
ようにしていますが、成人した子供たちの食べっぷりには驚  
くものがあります。代謝の良い20歳代と同じ物を食べ、運  
動をしないと必ず身体を壊していきます。子供たちの体質と  
性格が、夫婦どちらかと微妙に似ているのですが、その混在  
が面白く、不健康になるとわかっていても黙って様子を見て  
きました。自己の確立こそ人生を方向づけるものであり、人  
から言われたものは身につかないからです。

健康に悪いことが分かっているにもかかわらず辞められない  
人や、アルコールに依存する人、うまい物には目のない人が  
います。他方、仕事や生活だけでなく、食物や料理方法に非  
常に厳密で、却って几帳面すぎてリラックスできなかつた  
り、ストレスとなる人もいます。前者は欲望に囚われ、後者  
は鍛錬に自虐的になることもあるようですが、幸せ感という  
か、人生観が適切なものになる必要があるように思います。

体調や状況の悪い人ほど、何か一つのことでも挽回を図るう  
と一途になります。そうすると却って他のことがうまく否か  
なくなりません。やはり援助者や助言者が必要ですが、日本社  
会は、どうもそういう役割を果たす人が少ないように思われ  
ます。現在、計画しているのは、家庭医としてのマリヤ・ク  
リニック会員登録です。そして、会員にはセミナー・食事指  
導・食事会やスポーツなどを一緒にする機会を提供しようと  
考えています。ともかく、企画段階ですから、助言や意見、  
そして協力してくださる方は、私に気軽に声を掛けてくださ  
るか、メールをください。3階のエステル・ホールも利用し  
ていく予定です。今年も宜しく願います。

事務長・柏崎久雄

\* **感染症の疑いのある方は廊下の入口から**

インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか等が疑われ  
る方は、中央通路わきにあるインターホンでご連絡くださ  
い。状況を確認して2階の感染症患者待合室に誘導してい  
ます。院内感染を避けるためご協力ください。待合室も病  
態別に隔離して診察しますので、ご安心ください。

\* **ビタミンC点滴療法について**

ガン治療の選択肢として、体調維持と治療のため、副作  
用の無いビタミンC点滴療法があります。

\* **サプリメントの販売は隣りのヨーゼフの店舗となります。**

サプリメントを医療費控除にする場合には、院長処方が必要で、  
クリニックで処方料金が掛りますが、ご自分の判断で購  
入する場合には、これまでどおり商品代金だけです。1  
5日までEとEPAとペプタブのキャンペーン販売です。  
キャンペーン販売は医師処方方は適用されません。

\* **特別待合室を1階奥に設けました。**

ベビーカーもあ  
り、他の人に気を使わないで待ったり栄養指導を受けた  
りすることができます。特に、自閉症の患者さんのご利  
用を勧めています。受付にお申し込みください。

\* 日経ヘルス2月号に、院長記事が載ります。

\* **「聖書を読む会」1月18日(火) 2時〜2時20分**

\* **回復の会 1月18日十一時〜十五時 事前申込**

参加者が増えても支障がないために、定員を十六名に変  
更しました。会費二千円です。

\* **低血糖症治療の会、全体研修会 2月24日(木)**

詳細は、今月中に会員に発送します。入会・参加申し込  
みも受付中です。

## 《栄養医学の課題と今後の進展》

### 1. 現代医療事情

マリヤ・クリニックは、日本では最も早く栄養医学を治療に採用して多くの成果を上げてきました。1988年に機能性低血糖症の検査(5時間OGTT)を始めて2400ほどのデータを蓄積しており、民間の診療所としては稀有なものとなっております。その低血糖症の治療から派生して、大量ビタミンCの点滴治療やOAT検査、IgG検査などの検査も日本で最初に始めたのです。来院する患者さんの多様な症状の治療の為に始めたものですが、そういう面では、病名にこだわる保険治療に左右されることなく、その症状をもたらす原因を探って多様な検査を模索してきた結果です。例えば胃の中にヘリコバクターピロリ菌がいても、胃の中が荒れて発病しなければ保険で治療することができない、という矛盾は、医療費の高騰を招き、メタボリックシンドロームなどの予防医学を展開させたのですが、これもまた、一律な数値基準を採用した為に治療への不信感や治療方法の迷走を生み出しています。

これらのことは、患者主体の医療というよりも、保険診療のための医療、つまり商業行為としての医療になってしまう原因ともなっております。また、医療制度が安全や不正診療防止のためとはいえ、許認可によるものとなってしまったために、医療が先進技術を求めるもの革新的なものとなり、「医は仁術なり」という貝原益軒の養生訓からは離れて、「医は算術なり」という治療は金銭次第というものになってしまっています。「医は仁術なり。仁愛の心を本とし、人を救うを以て志とすべし。わが身の利養を専ら志すべからず。天地のうみそだて給える人をすくいたすけ、萬民の生死をつかさどる術なれば、医を民の司命という、きわめて大事の職分なり」(養生訓)

私どものような小さなクリニックが、どこよりも早く先端的な治療を始められたのは、低血糖症は院長自身の闘病からきたものとしては別ですが、最近では患者さんから「このような治療法があるのだけれど、どうだろうか」と持ちかけ相談されたものを検討して採用したものが多くあります。これらは、組織的・制度的承認を必要とする大病院や公的病院では無理なことでしょう。つまり、治験として患者さんの同意書を得て検査をし、その成果を確認するには、小さな診療所の方が融通が効くのです。

ところが、多くの医療機関が、根拠の確認できない治療をしています。例えば、ホメオパシー(自然界に存在する成分を極端に薄めて、それを服用する)などは、医学的根拠もないし、検査もデータもないので、とても医師がすることは思えません。また、医学的根拠も説明せずに、「ガンに効く、～に効く」などと体験を造り上げて(或いは錯覚して)、治療をしたり、製品を販売したりすることも、おかしなことですが、治りたい一心の患者さんにとっては、ワラにもすすがる思いで取り入れるのです。低血糖症の治療にも、「炭水化物を一切摂らずに、大量のタン白質とサプリメントを摂れば良くなる。」などといった「危ない治療法」がまかり通ってしまったことに驚いています。医療や福祉の従事者は、そういう面で常識や理性が必須なこととは、もっと強調されるべきです。こんなことでは、栄養医学が社会的な承認を得るのは難しくなるでしょう。栄養医学はサプリメント販売業ではありません。

私達夫婦は、信仰者であり、宗教的癒しというものも信じ祈るのですが、「何でも真剣に祈れば治る。大金を献金すれば治る。本気で信じれば治る。」などといった類の宗教は、やはり危険です。この類いの健康食品販売や宗教的な癒し、そして超自然的な癒しは、文明が進んでも世界中で決して衰えないものですが、そのような極端に走る人の心情も理解しなければなりません。栄養医学ガイドブックにも書きましたが、アメリカでよく利用される代替療法のトップは祈り療法で43%の人が用いているのです。

聖書の教えの観点から言えば、本人のために良くない癒しを神が行うことはありません。つまり、肥満の人を祈りで治したら、節制と自己管理をしない自堕落な人になってしまうので、神が癒すことはありません。心身の傷も時間を掛けて労わるほうが、性急に神に癒しを求めるよりもはるかに健全であり、本人の人格成長に必要です。

生活管理や努力、そして人格的成長など関係なしに、パッと手術や機械で健康になることを願う人々が多くなっているように思われます。腸内環境が悪くなり、免疫力の落ちている人が非常に増えていますが、暴飲暴食と薬の乱用が多くの原因となっていることは否めません。こういうことは、身体だけでなく精神にも異常をもたらしています。ところが、病的な状態になると自分のことを的確に判断・管理することができなくなり、暴走を始めます。そういう面で、利益や金銭重視の生活を戒める宗教性や倫理教育が日本社会に、現在最も必要なことであると考えるのは少数者ですが、緊急なことです。

## 2. 栄養医学の概要

栄養医学とは、身体のアンバランス・代謝を改善することにより、脳と身体に可能な限り最適な生化学的環境を与える治療法のことです。それには、最適な食事と栄養治療、つまり必要なビタミン・ミネラル・アミノ酸・酸素・必須脂肪酸などを補完することによって行います。効き目は穏やかで自然ながらも、好結果を得られるとされ、ここ40年ほどの間に発展してきた医学分野です。栄養医学と分子整合栄養医学は、少し違ったものですが、私達は簡単に栄養医学としてしまっています。ただ、マリヤ・クリニックは、運動や生物的環境を考慮し、さらに心理精神的要因を加えることによって、独自の栄養医学を進めているということが、これまでの歩みの中で確認されてきました。

### A. 栄養医学第3の波（分子整合栄養医学）

栄養成分は、病気予防だけでなく、完全に治療を目的として使用されます。高容量のプロテイン・ビタミン・ミネラルなどの使用が、その欠乏症と考えられる以外の病気に非常に有効であると考えています。

- 1 食事がどんなに完璧であっても、心理的・生理的ストレスにさらされている人の場合には、食事だけで健康状態を維持するのは難しい。また、完璧な食事を摂ること自体が難しくなっている。
- 2 ビタミン類の栄養サプリメントは、個人や状況そして季節などによって最適量が異なり、心理的・生理的ストレスの質と程度によって補給量を調整しなければならない。
- 3 ビタミン欠乏以外の理由で起こっている病気が、栄養サプリメントを最適量で補給することにより改善される。
- 4 栄養サプリメントの正しい補給と、最適で完全な食事が人体にとって最高の治療薬になる。

### B. 他の医学との違い

現在の医学は対症療法であり、薬物療法と外科的処置などによって、身体全体には害を与えてもその局所的症状をより改善しようとするものです。強力な薬剤を開発し処方したり、病変した部位を切除したり、薬物を注入したり、或いはその他の科学的(化学的)治療をすることが図られています。医者として現在の症状を和らげるために副作用を覚悟で薬物を用いることはありうることですが、病気に対応できる体力を形成、維持する健康管理に患者の注意を促すことは欠かしてはならないことです。

### C. 栄養医学の要件

- 1 血液・尿検査、食生活、職業、生活環境、遺伝素因などを調べ、症状や病状を確認する。
- 2 栄養医学の治療法と本人への必要な要素の説明をする。治療期間と概要も説明する。
- 3 欠けている栄養素を2-3ヶ月十分に補給し、体調の変化を診る。その間に、本人の健康感・水準を共に確認し、安易に治療を辞めないようにアドバイスする。
- 4 改善の有無を確認し、その他の病因の有無を診る。必要ならば他の検査をする。
- 5 腸内改善やTCAサイクルの改善以外では6ヶ月を回復の目安とし、その後の食生活や補給すべき栄養素を説明する。

### 3. 栄養医学と当院の課題

**A. 医師の確保。** 分子整合医学を研修した多くの医師も、実際に治療に用いていないことが多く、症例や処方相互研究をしなければならないことが、わかってきました。現在、症例研究会の参加医師を募集しています。無料ですので、条件があります。実際に、検査と治療を行い、必要なサプリメントを処方することができて、過去において、しっかりとした治療をおこなっていることです。

**B. 書籍や論文や研究の発表。** 様態が著しく改善したアスペルガー症候群の患者さんを、親が掛りつけの医師に診せたところ、「その治療は主流ではないので、のめりこまないように」と指導されたそうです。医師は、論文や学会で発表されていないと信用しませんし、研究を承認されるための真摯な働きかけと努力が必要です。

**C. 治療を啓発し、推進する患者活動。** 栄養医学を理解し、改善した患者さんに、今後関わっていただき、他の患者さんのアドバイスや治療体験を記録していただきたい。自閉症の患者の家族はこれまで孤軍奮闘して来られたようで、自己判断で治療をしようとする傾向が強く、当院としても対応に苦慮しています。一時的に症状が悪くなっても、体質改善の為の反応である場合もあります。或いは、その症状が別の要因である場合もあります。これらの理解のためには、患者の研修会と交流が必要になり、また助けあうことも必要となります。各地に患者の会ができたならと願っています。

**D. 治療法や必要なサプリメントの供給と廉価販売。** OATやIgGの検査は、まだマリヤ・クリニックしかしていないし、他の医師では治療法がわからないでしょう。毛髪検査の有害ミネラルの除去法も少しずつ解明していますが、まだ難しいところがあります。サプリメントも高いので、(株)ヨーゼフを通して安くしていますが、まだ企業規模が小さく、思うように進みません。他の手段も模索しています。

**E. ネットによる栄養指導やアドバイス。** 遠方の患者さんも多く来院するのも難しく、間隔も長くなるようで、治療に遅延をきたしています。スカイプによる相談を少しずつ始めています。

**F. スタッフの増員と強化。** 4月に3名を増員予定です。1年以上研修に掛りますので、フルパワーは来年です。人を幸せにするホスピタリティーを身につけて欲しいと願っています。

あまりに多くの課題があり、患者さんも増える一方なので、院長の講演は全て辞退しています。低血糖症治療の会は、全体研修会や回復の会が定着してきていますが、国の取り組みを求める市町村の決議も全国で続いておりますので、理事長として柏崎久雄が講演や説明にでかけなければならないと考えております。娘の杉本主愛医師は、栄養医学の盛んなカナダに留学の予定で、5年後には強い助けとなるでしょう。

#### 《 診 療 時 間 》

月曜～金曜（午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分）

土曜（午前8時30分～12時10分、午後2時～4時）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- 各種健康保険取扱機関
- 介護保険取扱機関
- 結核予防法指定機関
- 身体障害者認定医
- 各種健康診断
- 生活保護指定機関
- 特定疾患取扱機関
- 自立支援医療機関
- 小中台小学校校医
- 栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)